

家園

字体作者：周 慧琚

第10号



NPO法人 中国帰国者・日中友好の会
〒110-0016 東京都台東区台東 4-23-11
川口工商ビル1階
TEL : 03-3835-9357 FAX : 03-3835-9358
<http://www.ab.auone-net.jp/~jc-yuko>



写真・二田口 国博

目 次

★ 本会活動写真	2
★ 広島交流活動の旅	3
★ 『中国のお母さん』の練習風景	4
★ 楽器教室 日本の友人	5
★ ああ、家紋よ	6
★ 日本語文章鑑賞	7
★ 「中国帰国者之墓」のご案内	7
★ 本会活動記録・お知らせ・編集後記	8



広島
交流活動



子ども中国語教室
授業風景

交流見学広島行--広島交流活動の旅

河本 栄生

“共同命运总相识”，三月十七日应中国归国者・広島友好会邀请，东京中国归国者・日中友好之会组织95人交流访问团飞抵广岛空港。

春光明媚，游人云集，大家乘两台巴士来到了广岛港码头，乘船远望风景秀丽迷人，大家首先游览了世界著名遗产，海岸边上红色“大鸟居”潮起潮落岸然耸立，在这里游人们合照留念欢声笑语，格外兴奋。

广岛方面归国者精心准备亲手做出美味佳肴设宴为大家“接风洗尘”，下午三点钟中央公民馆广岛归国者们在馆前排队夹道欢迎，大家在欢迎声中进入大厅。灯光明亮会场庄严，“欢迎会”三个大字悬挂在大厅正中。在热烈友好气氛中首先中国归国者・広島友好会理事长中山文林宣布开会，他热烈欢迎东京朋友们前来参加联谊交流并就此次活动的意义做了详细说明。同时提出要为日中友好关系修复尽一份力量。

中国归国者・日中友好之会池田澄江理事长在掌声中强调“全国孤儿的请愿诉讼成果来之不易，要为维护人权团结一致，今天欢聚一堂是归国者的盛会”。又指出孤儿配偶者的支援政策落实是大家不懈努力的结果，并语重心长地说“东京残留孤儿之家欢迎广岛归国者们来做客”。还希望两地加强团结，互相沟通，为日中友好做出贡献。

十八日早餐后，归国者们乘有轨电车，在凝重的气氛中参观和平纪念公园，眼前看到一座三十余米高“被爆废墟（原爆ドーム）”这是历史的见证。它告诉世人不可忘记广岛原爆的悲惨景象，它唤起世人反对战争，爱好和平。大家随即又参观了“广岛和平纪念馆”一九四五年八月六日上午八点十五分广岛遭受世界上第一个原子弹轰炸，城市几乎二十万人失去生命，能活下来的人也身心上受到极大创伤，至今仍有不少处在痛苦之中。资料馆收集了无数被爆惨状照片，每份资料都凝聚着人们悲哀和愤怒。只有彻底销毁核武器才能实现世界永久和平。

联谊活动于十八日下午一点开幕。演出大型舞剧，感人的“中国妈妈”表现在战乱的年代里把日本孤儿救出，哺育，养大，歌颂了中国妈妈的慈祥伟大。东京方面演出了大合唱“说句心里话”表达了怀念中国人民们动人情感。太极拳的表演身手不凡。女生二重唱，乐器大合奏。广岛方面表演秧歌舞生动形象歌颂爱家乡爱生活的愿望。感人演出二十来节目使舞台上下欢腾，联谊活动推向了高潮。会后归国者们激动的心久久不能平静，让我们把这次联谊活动留在美好的回忆中吧。

这次活动两地归国者同台表演，激情奔放进一步增进了友谊，是一次很有意义的文化交流；通过广岛原爆ドーム见学事

项有了新的认识：我们这些曾经被遗留中国的孤儿和那些广岛被爆日本市民都是战争受害者，都要永远热爱・捍卫和平生活。



「同じ宿命の者たちが終に出会った」中国帰国者・広島友好の会の招きを受け、三月十七日、東京中国帰国者・日中友好の会95名の訪問団が広島空港に着いた。

春うららかな日、宮島港から船に乗り美しい景色を楽しんだ。まず、世界遺産の宮島の大鳥居は海の中に、すっと立っていた。荘厳な姿に大感動、にぎやかに記念撮影をした。

広島はの帰国者たちは、心づくしの歓迎会を開いてくれた。午後三時、中央公民館の前にずらりと並んで出迎えてくれた。明るい光がとまり、「歓迎会」の字がロビーの真ん中に見えた。歓声あふれる中、まず中国帰国者・広島友好の会理事長の中山文林氏が開会宣言をされ、東京の帰国者を歓迎するとともに、この交流活動の意義について話された。また、日中関係修復のためにも一役買うように呼びかけられた。

中国帰国者・日中友好の会の池田理事長は大きな拍手を受け、「全国の孤児の請願が実るのは容易なことではありませんでした。これから人権保護のため団結しましょう。今日は帰国者が一堂に会した盛大な宴です」と強調された。また、配偶者の支援策が実現したのも皆の不断的努力の成果ですと言われ、「東京の残留孤児の家には是非遊びに来てください」と深い思いを込めて話された。そして、これからも両地で団結し合い、理解し合い、日中友好のために努力することを希望すると言われた。

十八日朝食後、帰国者は重々しい空気に包まれた平和記念公園を訪れ、高さ30メートル余りの原爆ドームを参観した。これぞ歴史の証人である。広島に原爆が投下された記憶を忘れてはならないことを今に伝え、平和を愛し、戦争反対を世に訴えていた。続いて、広島平和記念資料館を見学した。1945年8月6日午前8時15分、広島は世界初の原子爆弾投下を受けた。およそ20万人が亡くなり、生き残った人々も心と体に大きな傷を負った。その傷のせいで、今でも苦しんでいる。資料館には被爆した当時の悲惨な写真が多く集められていた。どの資料も人々の悲しみと怒りで満ちている。核兵器を廃絶してこそ永久の世界平和が実現するのだ。

十八日午後一時に交流会が始まった。大型舞踊劇「中国のお母さん」は、戦争の時代、孤児を救い、養育てた中国の母の偉大な慈悲を歌い上げている。東京の帰国者が披露した大合唱「話したいことがある（説句心里話）」は、中国人の温かい心を懐かしく思う気持ちを表した。太极拳の技も見事で、他に女性二重唱、楽器大合奏を披露した。広島はの帰国者は、秧歌舞（田植え歌）で故郷や日々の暮らしを愛する気持ちを歌い上げた。感動的な舞台は20演目にもなり、会場は熱気に包まれ、会が終わった後も興奮が冷めることなく、長く皆の心に美しい思い出として残りそうだった。

広島と東京の帰国者が同じ舞台上で演じ、気持ちが盛り上がったことで友好が深まり、非常に意義ある文化交流となった。原爆ドームの見学は新しい意識を芽生えさせた。帰国者も広島はの被爆者も共に戦争の被害者である。我々は、永遠に平和を愛し平和を守らなければならない。（翻訳：真鍋たか子）

感人肺腑 催人泪下 舞剧《中国妈々》排演之幕后台前

张 競

《中国妈々》，取材是日本侵华战争后期，无数平凡的中国母亲收养日本遗孤的感人故事。表现了中国妈々对流失无助的日本女孩由敌视、纠结、接纳、哺养、成人，又忍痛让她回归日本情节生动的舞剧。

健身舞蹈班老师中村树人、中村惠子夫妇为导演这样重要题材的舞蹈十分重视，应该说是期盼的宿愿。尽管都是古稀之年，但通过剧情理解，他们毅然领命，投入排练，倾入全身心血精力。

同时，十几位演员参加排练难度之大，时间之紧，超出了预想。从动作到表情，从节奏到音乐，集体配合协调，要接近作品原创标准，有很多困难，演员们大部分 70 多岁，有的腰腿疼痛，有的家庭负担重，再加上舞蹈基础，专业素养，每排练一个动作需要反复多少遍才能完成。困难接踵而来，两位老师带着伤病的身体，坚持到场指导，不断为学员鼓励，加油。惠子老师作为该剧的妈々（主角），她不仅分担了剧中重要戏份，还以她独特的亲善方式把大家凝聚起来，激励学员们调整心态，刻苦排练，有的肩周炎犯了，贴上膏药咬牙坚持；有的腿不能蹲下，就戴上护膝；动作不规范，边练边揣摩，反复练习，功夫不负有心人。慢慢地大家逐渐找到感觉……

正式开场公演了，舞台上，伴随强烈的音乐，在一束强光中，一群中国妈妈怀着对侵略者的刻骨仇恨，呐喊怒指，义愤填膺。主演母亲的惠子老师以饱满的情感（她本身是残留孤儿）和丰富的舞台表演把一位母亲对一位遗孤少女，由恨到爱，由接纳养育到忍痛送归的情感升华，如泣如诉，催人泪下。同为主演的厉杰也已 65 岁在表演中毫无暮年之气极力表演一个十几岁的少女的失落、惶恐、痛苦到被中国妈妈接受、养育、喜悦、离别归国。演员们以高难动作展现日中两国普通人民不幸沦为战争苦难受害者而本能宣泄的纯真感情，真实还原历史的一个宝贵侧面。

当灯光亮起，观众们感动了；就是这样一群年逾古稀的演员们用她们夕阳似的殷红生命色彩，用全身心的情感绘出一幅战乱题材生动画卷。

最后，我们向中村树人、中村惠子两位老师致敬致谢！向全体参演的人员表示感谢和问候！大家真的辛苦了！同时我们期待作品会有更大升华，提高。

『中国のお母さん』は、日中戦争後期を背景に、中国の大義のために純朴な母性愛をもって日本人孤児を引き取り育てたことに取材した情感あふれる舞踊です。作品では、中国のお母さんが寄る辺の無くなった日本人の女の子に対する敵意、感情のもつれから始まり、やがて、養女として受け入れ、育て、成人後、心の痛みに堪えて帰国させるまでが描かれます。

舞踊クラスの先生の中村樹人、中村恵子ご夫妻はこのような重要なテーマをもつ舞踊の演出を大変重視され、待ち望んでおられました。お二人とも古希を迎えられていましたが劇への理解を通して、決然と稽古に打ち込まれました。

同時に、10 数名にもなる出演者の稽古も難度が高く、時間がかかることは予想をはるかに超えていました。動作に合わせて表情を作ること、リズムを刻んで音楽にすること、全ての出演者が連携プレーできること、原作に近いレベルを求めることなど、たくさんの困難がありました。演技者の大部分は 70 歳を超えていて、腰痛や足の痛みを抱えている人、家事の負担が重い人、加えてダンスの基礎や専門的素養も必要です。稽古では、一つの動作を何度も繰り返し練習してやっとマスターできるといった具合です。練習は困難を極め、お二人の先生方も病氣やけがを抱えておられましたが、休むことなく現場に来て励まし、しっかりと教えてくださいました。恵子先生は、この劇のお母さん（主役）を務められています、劇の重要な役を担っておられるだけでなく、恵子先生特有のフレンドリーなやり方で出演者たちを深く結びつけ、気持ちが通じ合えるように激励されました。だからこそ、激しい練習のせいで肩に炎症が起きてても膏薬を張って頑張られました。足が悪く跪けない人は膝カバーで補いました。ちゃんとした動きができない中で、練習しながら考え、繰り返し練習し工夫するうちに、だんだんと感覚をつかんでいったのです。

正式に上演が始まると舞台では激しい音楽と強いライトに照らされる中、一群の中国のお母さんたちが憎しみ、叫び、怒り、義憤に満ちた表情で侵略者たちを指さすところから始まります。主演のお母さん役の恵子先生（ご自身も残留孤児です）は、表情豊かな舞台で、一人の母が取り残された一人の少女に出会い、憎しみが愛情へと変わっていく様子を情感たっぷりに演じます。そして、孤児を育て帰国させるところでは、気持ちが昇華され、すすり泣くようなもの悲しさであふれ、見る人の涙をさそいます。もう一人の主役の歴潔さんも 65 歳になりますが舞台では年齢を感じさせない演技で十代の少女の失望、恐怖、苦痛、そして、中国のお母さんに出会って育てられ、喜びにあふれる中、離別し帰国するまでを一生懸命に演じています。出演者たちは高度な技で、日中両国の普通の人々が戦争の犠牲者となった苦しみを素直な感情とともに舞台上で表現しています。これは、歴史の貴重な側面を事実そのままに還元しているといつてよいでしょう。

ライトがつき、観客が感動する・・・まさしく、古希を超えた演技者が戦乱をテーマにした絵巻を真っ赤に燃える生命力と全神経を使った身体で生き生きと演じているのです。

最後になりましたが、中村樹人、中村恵子両先生に敬意と感謝を表したいと思います！そしてこの舞踊劇に参加されたすべての方々に感謝とご挨拶を申し上げたいと思います。皆さん、本当にご苦勞様でした！同時に私たちのこの作品がさらに昇華され高められることを願ってやみません。（翻訳：真鍋たか子）

舞剧两位排练指导老师



器乐教室里的『人和事』

惟 遠

平沢千恵子女士是位热心善良的日本人。去年春天她参加了器乐教室活动，又先后介绍堺道子和富川真弓两女士参加活动。由于对器乐音乐的爱好，几年前她就能熟练地用“葫芦丝”吹奏出不少中国和日本流行的曲目，还先后多次在归国者祭り及新年会上参加演出，受到归国者们的好评。后来她了解到“孤儿之家”活动经费比较紧张，目睹了活动教室的条件还不够完善等情况，始终考虑是否能帮点儿什么？前年秋天她借去中国旅游机会购买两套中文书捐给“孤儿之家”，又为“NPO”购买三条小地毯供大家使用。去年初，先后两次自费买了十五台谱架（每台约2000円）在七月十四日的“发表会”上又让她的丈夫全程录像。制作了DVD，还冲洗了多张他们在舞台上生动表演的照片，并免费赠送给大家。

堺道子和富川真弓二位女士也积极参加排练、演出活动，态度认真，一丝不苟，还经常为大家带来一些小食品、饮料、茶叶等，大家相处在和睦的气氛中。

三位日本朋友默默无闻为“孤儿之家”的发展主动献爱心，自觉作贡献，从一点一滴做起，从一件件事做起，这种精神令人感动、敬佩。我们每个学员朋友都应该像她们那样都敞开心胸，相互交流，人人都为“孤儿之家”献出一份爱。



堺さん（左）平沢さん（右）



富川さん



平沢千恵子さんは熱心で温厚な方です。昨年の春から私ども「孤児の家」の器楽教室に参加されました。それに前後して堺道子さん、富川真弓さんのお二人も平沢さんのご紹介により参加されました。

平沢さんは、音楽が大好きで、数年前に葫芦絲(フルス)をマスターされ、数多くの中国と日本の曲を奏でられます。又、幾度も帰国者の祭りや新年会に出演され、常に高い評価を得られています。

長い交流の中で、平沢さんは自然に「孤児の家」の活動経費が比較的苦しい状況であることや、器楽教室の経済状況にも限りがある事を目の当たりにされ、心を痛めておられました。

一昨年の秋、中国に旅行された折には、中国で楽譜を二揃いも購入され、孤児の家に寄贈してくださいました。それから吹奏楽器には必要であろうと譜面台を10台も届けてくださいました。そればかりではありません。孤児の家のために、玄関マットを三枚も購入され、教室の出入り用に提供してくださいました。

昨年7月14日の発表会では、平沢さんのご主人が開会から閉会まで全会をビデオにて撮影、DVDの制作を担当してくださいました。しかも、多くの名場面、出場者の舞台での晴れ姿を数多く焼き増して、皆さんに配られました。皆さんは大喜びでした。平沢さんご夫妻の温かいお心に感謝しております。

堺道子さん、富川真弓さんも例外ではなく、演出のご指導は熱心で、少しのミスも許されない厳しいご指導でした。しかし稽古以外のときは、お二人が手作りの食べ物や飲み物、お茶等をみなさんに振る舞ってください、和気あいあいの中で誰もが心を開き、身の上話や来日後の苦労話、日常生活の相談など、話の花を咲かせるひと時になります。

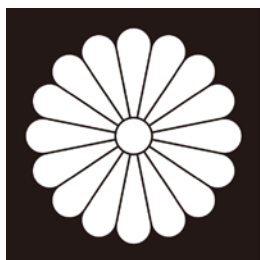
三人の方は、常に自ら進んで孤児の家の発展のために身を砕き驕ることなくただ黙々と細かいことから一つ一つ解決してともに稽古に励み演出してくださっています。

三人の友人のこの行動に私たちはどれだけ教えられ励まされたことでしょうか。ただただ感謝と敬服の念に堪えません。私たち器楽教室の生徒も三人の友人の「人の為に尽くすことを自らの歓びとする」という気高い精神と崇高な愛を学び、孤児の家の発展のために努力し貢献できるよう頑張らしましょう。(翻訳:林 満子)

怅然那，家紋——ああ、家紋よ

白山 明德

二十几年前，作为残留日本人孤儿回到祖国，我似乎懵懂地在浅草一个公司就职上班了。面接时，店长拿出一本《平安纹帐》，说书里有数千种“家纹”，这就是仕事！真怀疑我能吃这碗饭吗？当时，为了自立生活，坚持干起来。十三年时间，在窄小的工作房苦苦地作业也对家纹得以了解。有关记载是：“家紋は日本独自のもので、世界に誇れる美術である”。但实际很多纹样原型，来自中国，印度，甚至远及历史的巴比伦。



十六菊

现在，日本公家的纹章是“菊花纹”。护照的封面就是“十六菊”纹。随处可见的，商家营业时，门扉挂上印有家纹的暖帘；一般银行，寺院，神社也有特定纹饰。传统戏剧，歌舞伎役者都有精美大气的家纹。还有魁伟的相扑力士也会穿着印有家纹的和服，堂堂外出活动。

一定意义上讲，家纹是以象征性图案作为标志，多以花木月水为主；日常物品，有扇、伞、笠。先祖都可立为神明的家纹延传下来。如：“五三桐”，“木瓜”，“九曜”，“鹤”。一般日本家庭都有自己家纹，父子，叔伯，拥有同一种纹章；“苗字の影に家紋あり！”。可见姓氏和家纹两者关系了。

手工作业，让我对家纹有了认识、情感。家纹，显现出日本文化丰富侧面。著名小说家夏木漱石《门》就对家纹有生动描述。家纹也极为必要用到丧事上。葬仪式场里，鲜花，遗像，式场上端的“水引”（一张横长白布）印有家纹，门前一对白色纸灯笼，贴有家纹。人们在肃穆的气氛中，哀思逝者。从一场人生悲剧的葬礼，我领略了日本人对死的敬畏和诠释；由来已久的家庭贵重的图腾在不同场合的尚美和自信。

经年过往，所谓的“残留孤儿”至今残留，当然也会清风飘去。当初踏上国土时，政府如其所是安排身元保证人起个姓名，无论你心底是否乐意，仅解决了生活温饱的一群“老孤儿”，就是这样无奈？“残留”到了暮年也没有见过自己的妈妈！不知乡间故土，更不知晓什么家纹，子孙后人呢？，所以，为此怅然！

今から二十数年前に、中国残留日本人孤儿として祖国日本の大地に踏んだ間もなく、ぼんやりしたように浅草にある会社に就職しました。面接のときに、店長が一冊の『平安紋帳』を私に見せながら言った「この本に数千種類の“家紋”がある。これは仕事だ！」。この仕事が出来たかしら？と不安になりました。しかし、生活のために一日も早く自立しなければならぬと思うと、仕方なく仕事を続けました。十三年間、狭い作業房で孤独、ハードな作業を続ける中で少しずつ家紋に興味と理解を持ち始めました。ある資料によると「家紋は日本独自のもので世界に誇れる美術である」と記している。実際に、多くの文様の原型は中国、インド、古代のバビロンから日本に入ってきたそうです。

現在、天皇と皇室の御紋である「十六八重菊」が慣習法上の国章の扱いを受けている。十六八重菊に意匠的には似ている十六菊は、日本国の発行するパスポートなどのデザインとして取り入れられている；そして、銀行、神社や寺でも各々に用いる固有の紋がある。また伝統芸能や歌舞伎役者の定紋が舞台衣装に大きく染め抜かれることが多い。勇ましい相撲力士は、公の場では紋が入った着物を着ています。

ある意味で、「家紋」は象徴的な図案で構成され、家・一族の標識として機能していった。図案の種類が多くて花木や月や水の模様、日用品の扇、傘、笠等の模様がある。家紋は先祖代々継承され、人々の暮らしに息づいていた。家紋の起源は古く平安時代後期にまで遡る。江戸時代に入ると華美で装飾的な家紋「五三桐」（法務省では桐紋のなかでも主に五三桐を用いて、内閣総理大臣の紋章として「五七桐」を用いて、法治国家の象徴としても扱われる）や「五大紋」（ごだいもん）は、日本の家紋のうち、一般的に特に多く分布する「藤、桐、鷹の羽、木瓜、片喰」の5つの紋のことを指す。日本一般の家庭では各自の家紋を持っている。父子、叔伯は同じ紋章を持っている：“苗字の影に家紋あり！”姓氏と家紋は綿密な関係がある。

会社で手作業の中で、私はだんだんに家紋を知るようになった。家紋は日本文化の豊かさ表す側面である。有名小説家夏目漱石の名作《門》の中で、家紋について詳しく描かれた。家紋は人生の節目としての冠婚葬祭にも使われている。葬式場に飾る花、遺影、上端に家紋を印字している“水引”（一枚横断白布）、門の両側の白い灯笼にも家紋もある。人生の最後の儀式に人々は厳粛な雰囲気の中で故人の生前を偲び、お別れを告げる。

上記に述べたように家紋は昔から日本人自らの家系、血統、家柄、地位を表すために用いられてきた紋章は上品さ豪華さをもち、自信を示すこと。

波乱万丈な人生を送ってきた“残留孤儿”の皆さんは今もここに居ます。当然ながら、清々しい風と共に去ってしまった人もいます。祖国の地を踏んでも日本政府は当然のように保証人によって名前を付けさせていました。こうした名前は、こちらの感情そっちのけで、“老孤儿”の衣食を満たしたにすぎませんでした。このような数千人の“老孤儿たち”は古希を迎えた今も母親を知らず、生まれ故郷を知らず、更に家紋なんか知る由もありません。子や孫の代では想像に難くなく。だから、悲嘆にくれるのです。（翻訳：春晓）



鶴の丸

「笑い声」——「笑声」

木村 仁美

声がする。なんか、外から笑い声がする。窓を開けて外を覗いた。誰もいない…。

キョロキョロしてみた。でも何もない…。

ん？ ふと、空を見上げると、大きな満月。そっか…あいつかあ。

さっきまで、こっちを向いて笑っていたのに、僕が窓を開けたから、あわてて後ろを向いたんだ。

きっとまだ、むこうを向いて、クスクス…クスクス…笑ってる。

有什么声音。好像从外面传来的笑声。打开窗户向外张望了一下，谁也没有…。东张西望地看了一会儿。还是什么也没有…。

嗯？ 恍然、仰望天空一看、挂着大大的月亮。喔…原来是她呀刚才、还冲着这边儿笑呢，我一打开窗户、她便匆忙得把脸转向后面去了。

说不定又朝着那面儿、咯咯…咯咯…地笑呢。
(翻訳：春晓)

★★

「心に残る光景」——「长久留在心里的光景」

鈴木 勝子

いつまでも心に残る光景がある。友人と乗った大江戸線の車内。私たちの座席の向かいに二十代半ばの若者が乗ってきて座った。周りを見るでもなく、すぐに携帯電話を操作しだした。

途中の駅から八十代後半ぐらいのお年寄りが乗ってきて若者の隣に座った。疲れていたのだろう。コックリコックリし始めた。体が徐々に若者の方に傾き、何回か繰り返すうち、ついに肩にもたれかかってしまった。

お年寄りは気がつくふうもなく、若者は肩を動かして気づかせるのだろうと思っていた。が、彼は携帯電話を閉じ、自らも目を閉じた。お年寄りは無事目を覚まし、自分の降りる駅で降りて行った。

「ごめん」でも、「いいえ」でもなく、当たり前のように。彼はお年寄りが降りた直後、再び携帯を開き、操作を始めた。私は、何だか心にほのぼのとしたものの、満ちてくるものを感じ、帰路について。

长久留在记忆中的光景。一天、和朋友乘坐大江户线地铁的车厢里，在我和朋友座位的对面，有个 24、5 岁的青年坐下来。他没有顾及四周、拿出手机就操作起来。

途中、有位八十多岁的老人上来坐在年轻人旁边。老人好像很疲劳的样子。不久就打起瞌睡来。身体渐渐地倾倒年轻人的肩上，时而又返回来，就这样反复了几次，老人不知不觉地靠在年轻人的肩膀上。

老人没有任何知觉。我想年轻人会把肩膀耸一下让老人感觉到。可谁想到，他竟把手机合上，自己也闭上眼睛。老人不知不觉地睁开眼睛，到自己要下车的站便下了车。

相互之间没有一声，「对不起」，也没有一声，「不客气」，就好像应当应份地了事了。老人下车后，年轻人又继续打开手机，操作起来。我回家一路上，心里有一种充满着热乎乎的感觉。(翻訳：春晓)

「中国帰国者之墓」のご案内

所在地：東京都あきる野市菅生 716 西多摩霊園内
交通：JR 中央線立川→青梅線福生駅西口から無料送迎バス

(青梅線福生站 换免费接送巴士)

問い合わせ先 (联络处)「中国帰国者之墓」管理委員会
〒110-0016

東京都台東区台東 4-23-11 川口工商ビル 1F

NPO 法人 中国帰国者・日中友好の会

TEL：03-3835-9357 FAX：03-3835-9358



「NPO 法人 中国帰国者・日中友好の会」活動記録 (2014 年 2 月～5 月)

02/20	2014 年上半期学员招生开始	2014 年上半期講座募集開始
03/01	为了加强与当地居民互相交流，举办第四次手工饺子制作交流品尝会	地域住民との交流を深めるため、第4回餃子工房見学会を開催
03/28	为了加强与当地居民互相交流，在千叶市举办第五次手工饺子制作交流品尝会	地域住民との交流を深めるため、第5回餃子工房見学会を千葉市で開催
3/17-21	本会组织 95 名会员赴广岛，与归国者进行交流活动	95名の会員が広島に赴き、現地の帰国者と交流会を開く
04/03	因雨天中止赏樱花会，在本会活动室举办交流会	雨天のため花見会を中止し、教室で交流会を開く
04/19	在东京都台东区雅亭饭店举行祝贺河合弘之律师喜寿午餐会	河合弘之先生喜寿のお祝い会を東京台東区のレストラン雅亭で開く
05/11	中国残留孤儿律师在仙台举行干部会。本会理事及原告参加此会议	中国残留孤児弁護団が仙台で幹事会を開き、本会からは理事と原告が参加
05/23	厚生劳动省召开全国担当者会议。两位律师及六名原告参加此会议	厚労省全国担当者会議が開かれ、弁護士2名と原告6名が参加
05/29	访问四川省「中日友好太山村小学校」(详情后载)	四川省「日中友好太山村小学校」を訪問(詳細次号)

※お知らせ※

特定非営利活動法人
中国帰国者・日中友好の会

第 6 回定期総会

日時：2014 年 6 月 22 日（日）

時間：13：00～17：00

場所：上野小島社会教育館

住所：東京都台東区小島 1-5-2

(都営小島ビル 2F)

電話：03-3861-5063

《家園》編集委員（第 10 号）

白 山 明 徳	河 村 忠 志
二 田 口 国 博	眞 鍋 た か 子
春	暁 惟 遠
レイアウト 王 莉	

編 集 後 記

绚丽百合花(ユリ)、淡绿色花瓶，让事务室格外生辉。每过一周时间，她会在花店买上一束鲜花，主动送到“NPO”来。她说，因为这里，是我们的家。

日常，有学员主动上课早来，用吸尘器清扫教室；有学员主动为老师准备茶水；有会员主动整理工房；还有会员主动做一些份外事……更有无私奉献，热心教学老师，有时关心本会工作的律师。平凡小事，细微之处，快慰，温馨！

因为这里是我们的家。